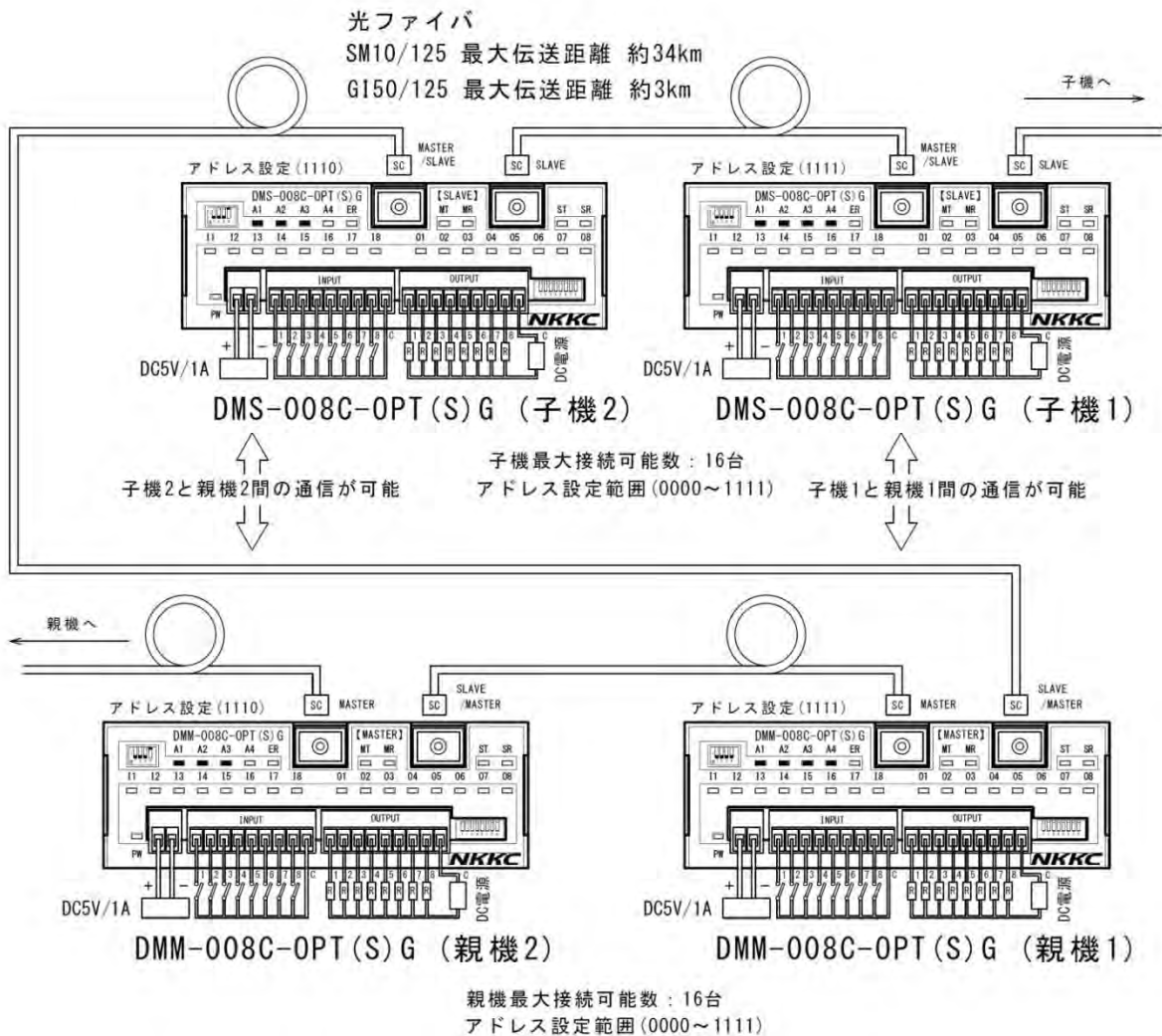


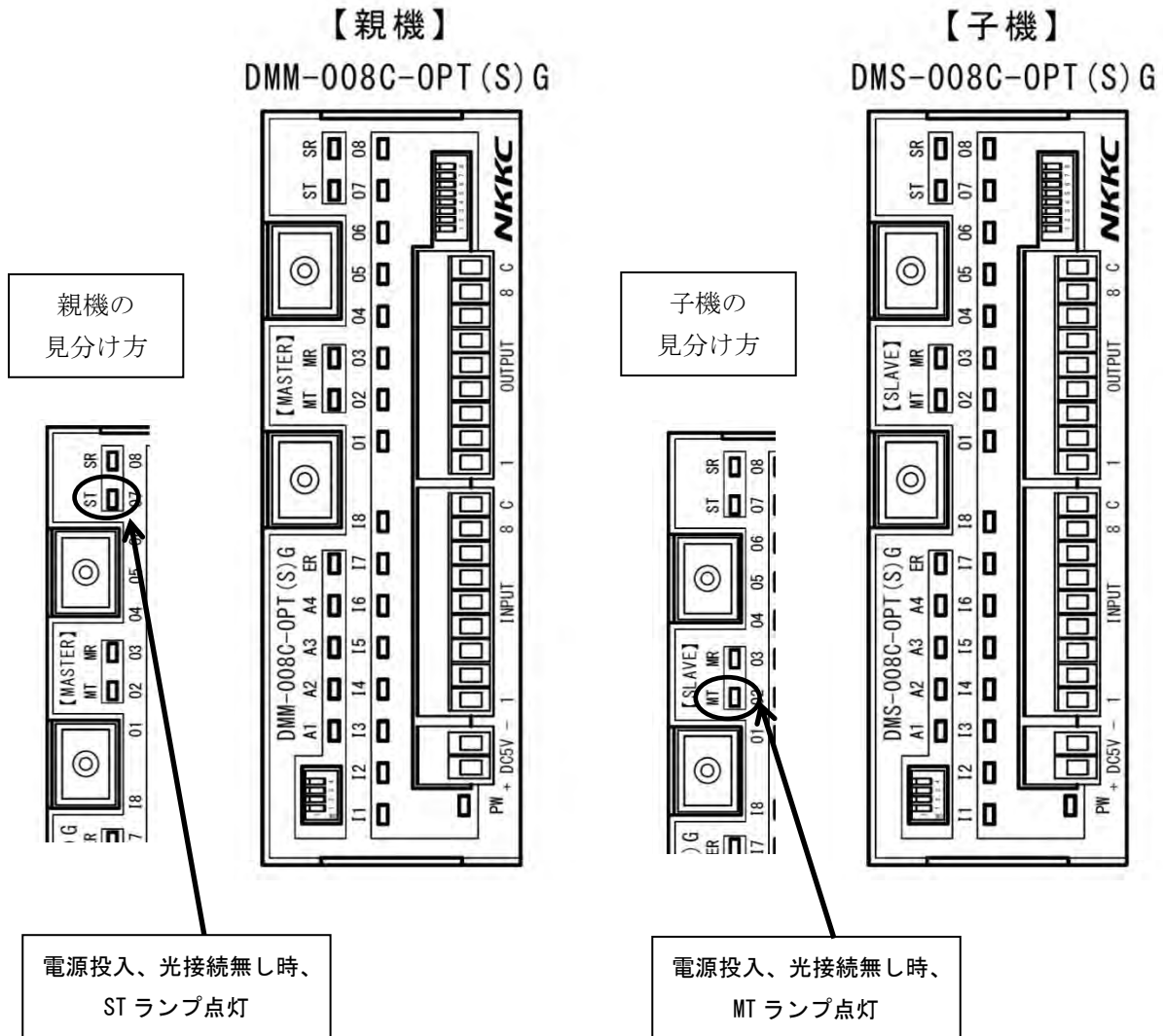
主管	DM□-008C-OPT(S)G	頁
情報通信事業部	仕様書	1 / 28
<p>1. 適用 本仕様書は、接点信号用双方向光通信機「DMS-008C-OPT(S)G」及び「DMM-008C-OPT(S)G」に適用する。 本製品は、RoHS2 対応品です。</p> <p>2. 概要 本製品は子機「DMS-008C-OPT(S)G」と親機「DMM-008C-OPT(S)G」間で、それぞれに入力した最大8ヶ所の接点状態を、光ファイバ1芯で最大34kmまで通信が可能となる光通信機です。また、子局、親機をそれぞれ最大16台まで増設が可能となっており、アドレス指定機能により、同一光回線内において、複数の子機-親機間の接点状態の1:1通信が可能となっております。</p> <p>3. 伝送距離 ○伝送距離は、製品の許容損失と光ファイバの損失量により決まります。 本製品は発光強度の最小値が-15dBm、最小受光感度が-32dBmであるため、許容損失(パワー budgets)は、-15dBm-(-32dBm)=17dBとなります。シングルモード光ファイバ損失量を0.5dB/kmとすると、最大伝送距離は、許容損失17dB÷光ファイバ損失0.5dB = 34kmとなります。 (中継アンプやコネクタ等、光ファイバ以外の損失及びマージンは計算式に含まれておりません。) (実際に使用する光ファイバの損失によって、最大伝送距離は異なります。)</p> <p>○本製品は、マルチモード光ファイバ(GI50/125)、シングルモード光ファイバ(SM10/125)兼用です。 ただし、マルチモード光ファイバ(GI50/125)の最大伝送距離は、光許容損失に関わらず最大3kmとなります。尚、マルチモード光ファイバ損失は3dB/km以下のものをご使用ください。</p> <p>○マルチモード光ファイバ(GI50/125)使用時には、シングルモード光ファイバ(SM10/125)に比べ、発光強度が高くなります。受信機側の最大受光電力を超えないようにしてください。</p> <p>4. 製品型名 子機：DMS-008C-OPT(S)G 親機：DMM-008C-OPT(S)G</p> <p>5. 特徴 国産、自社開発品であるため、カスタマイズ対応が可能です。 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アドレススイッチの外部に出したい。 ●接点信号のチャンネル数を増加(16ch、32ch)してほしい。 ●電源電圧をDC24V対応にしたい。 ●接点信号ではなくデータ信号に対応したい。 ●耐腐食コーティングをしてほしい。 ●システムラックに入れたい。 等 		
DM□-008C-OPT(S)G		2024年4月1日現在

6. システム構成



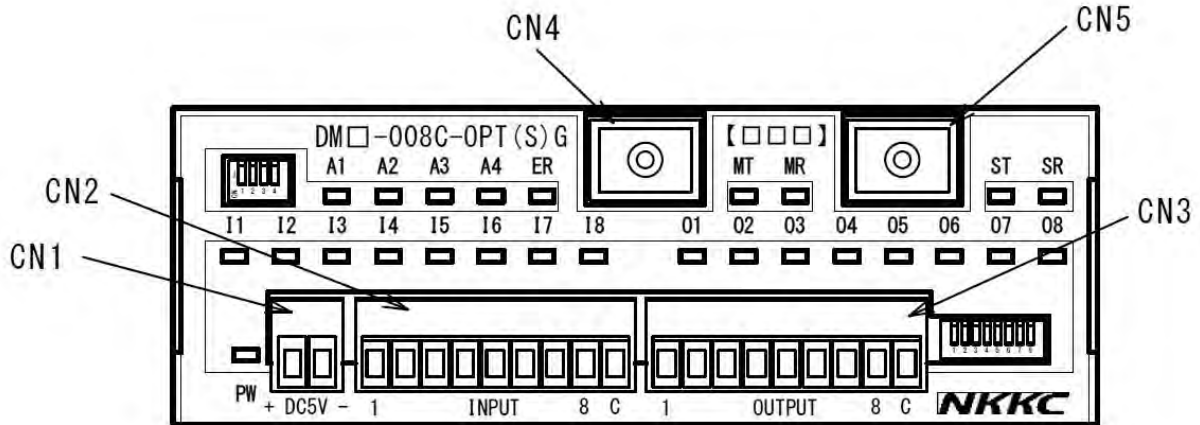
本製品は、
リング接続による冗長化には
対応しておりません。

7. LED点灯条件



表示	色	DMM-008C-OPT(S)G	DMS-008C-OPT(S)G
PW	赤	電源投入時点灯	
ER	橙	故障時点灯	
A1～A4	赤	アドレス設定用スイッチに連動して各点灯 アドレス重複時全点滅	
I1～I8	緑	各接点信号入力時、各点灯	
O1～O8	橙	各接点端子がクローズ時各点灯	
MT	緑	MASTER用 光ホトへ送信時点灯	MASTER/SLAVE用 光ホトへ送信時点灯
MR	橙	MASTER用 光ホトから受信時点灯	MASTER/SLAVE用 光ホトから受信時点灯
ST	緑	SLAVE/MASTER用 光ホトへ送信時点灯	SLAVE用 光ホトへ送信時点灯
SR	橙	SLAVE/MASTER用 光ホトから受信時点灯	SLAVE用 光ホトから受信時点灯

8. 端子配置図(DMS-008C-OPT(S)G/DMM-008C-OPT(S)G 共通)



CN1: 電源入力端子

番号	記号	用途
+	Vcc(+)	電源入力(DC5V)
-	GND(-)	電源入力(GND)

CN4: 光ポート

親機(MASTER)/子機(MASTER/SLAVE)

番号	記号	用途
1	-	光入出力

CN5: 光ポート

親機(SLAVE/MASTER)/子機(SLAVE)

番号	記号	用途
1	-	光入出力

CN2: 入力端子 ※

番号	記号	用途
1	IN1	接点入力
2	IN2	
3	IN3	
4	IN4	
5	IN5	
6	IN6	
7	IN7	
8	IN8	
C	COM	入力用モン端子

CN3: 出力端子 ※

番号	記号	用途
1	OUT1	接点出力
2	OUT2	
3	OUT3	
4	OUT4	
5	OUT5	
6	OUT6	
7	OUT7	
8	OUT8	
C	COM	出力用モン端子

※入出力端子の接続は、項目9及び項目10をご参照下さい。

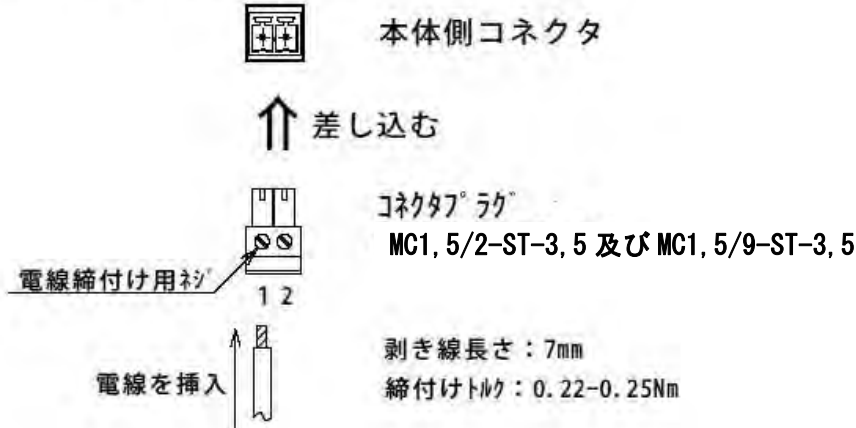
9. 電源・入出力用コネクタ適用線種

単線/撚線 0.14~1.5mm²、AWG26~16

10. 配線作業 (電源・入出力用コネクタ共通)

※配線作業を行う際には、通電が停止している事をご確認下さい。

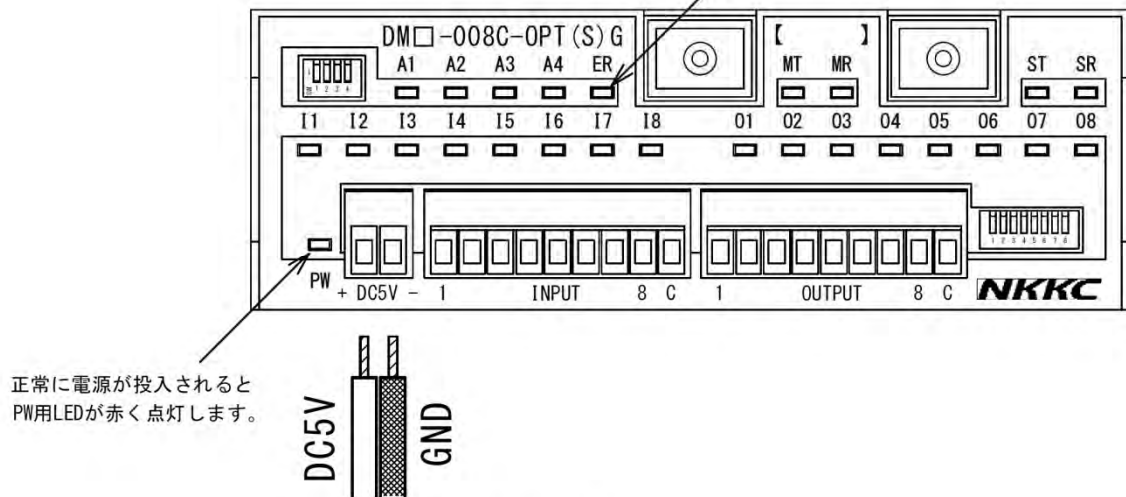
- ①コネクタプラグに電線を挿入し、電線締付け用ネジにて固定して下さい。
- ②コネクタプラグを本体側コネクタに差し込んで下さい。



11. 電源投入について

電源入力端子 CN1 に、DC5V を印加してください。

故障している場合、
ER用LEDが黄色に点灯します。
修理が必要となります。



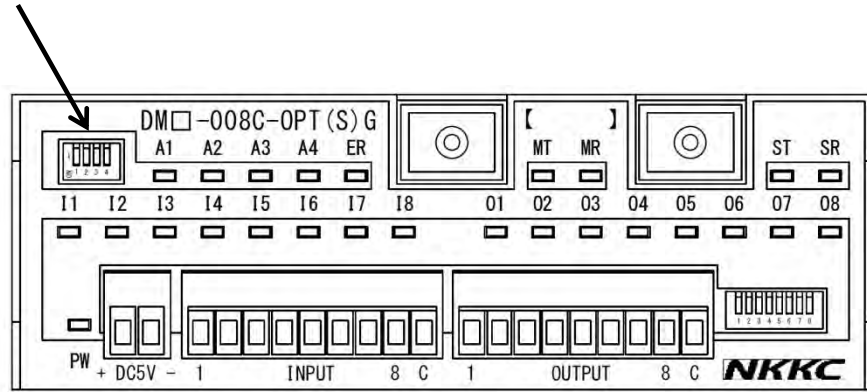
電流容量 (2A以上)

- ※1: 使用する電源の温度ディレーティングにご注意ください。
- ※2: 弊社製 ACアダプタ (AD5V-3B) (別売) に対応します。

12. アドレス設定について

アドレス設定スイッチにて、親機及び子機本体のアドレスを設定することができます。

アドレス設定用スイッチ



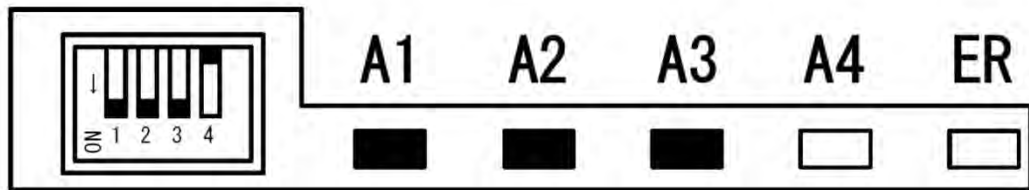
設定スイッチを下に下げると ON となり A1~A4 用ランプがそれぞれ点灯します。

ER 用ランプは、故障時に点灯します。通常点灯しません。

0000~1111 までの最大 16 個まで設定が可能です。

工場出荷時は、「0000」に設定しています。

(例) アドレス設定 (1110) 時

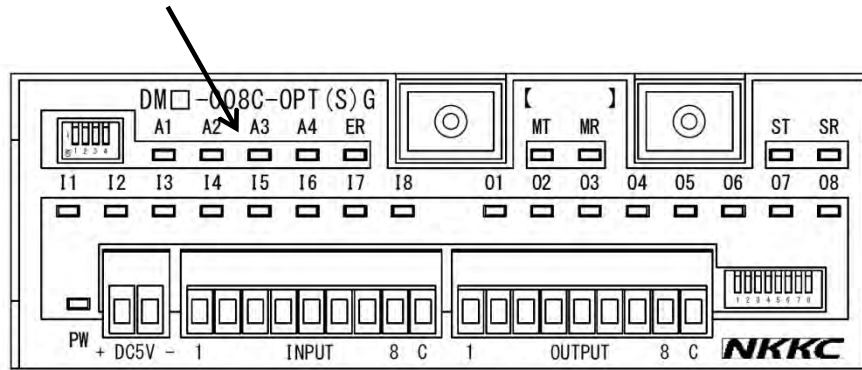


「下」「下」「下」「上」 「1」 「1」 「1」 「0」

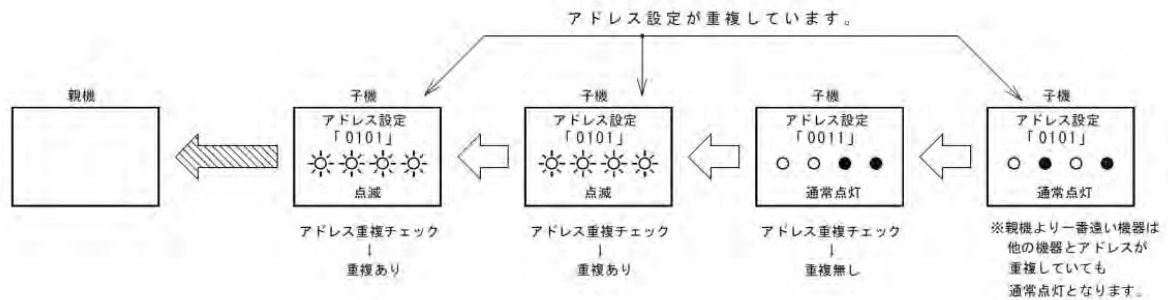
13. アドレスが重複している場合(アドレス重複通知)

親機間もしくは子機間で、同じアドレス設定をした場合、アドレス用LEDが点滅します。アドレス設定を見直してください。

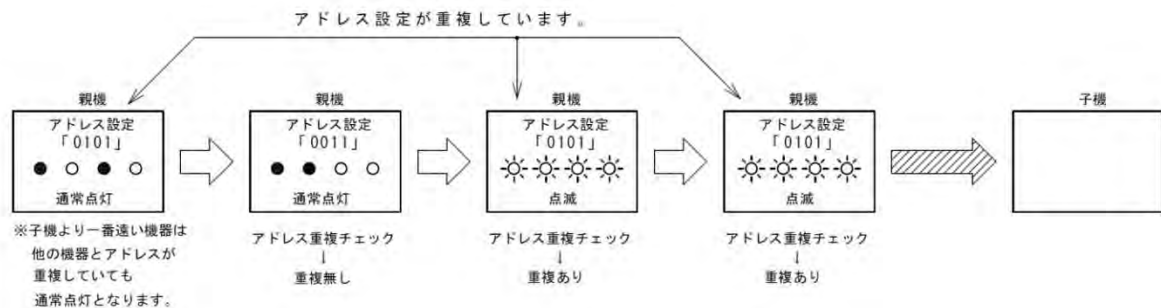
アドレス用LED(A1, A2, A3, A4)



(子機のアドレスが重複している場合)

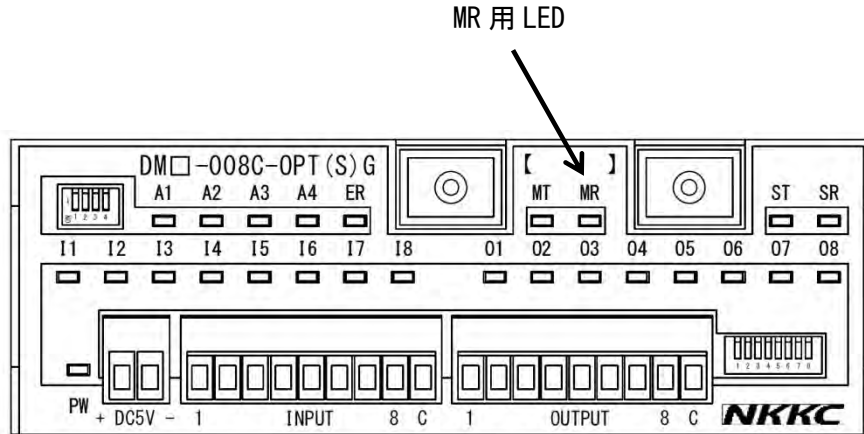


(親機のアドレスが重複している場合)

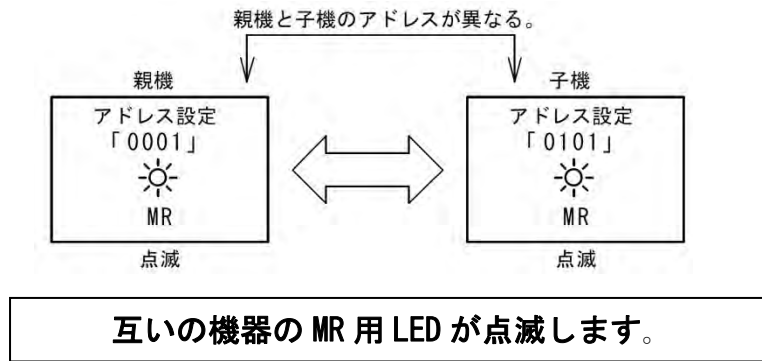


**アドレス設定の状態の関わらず、
アドレス重複通知は
4個すべてのアドレス用LEDが点滅します。**

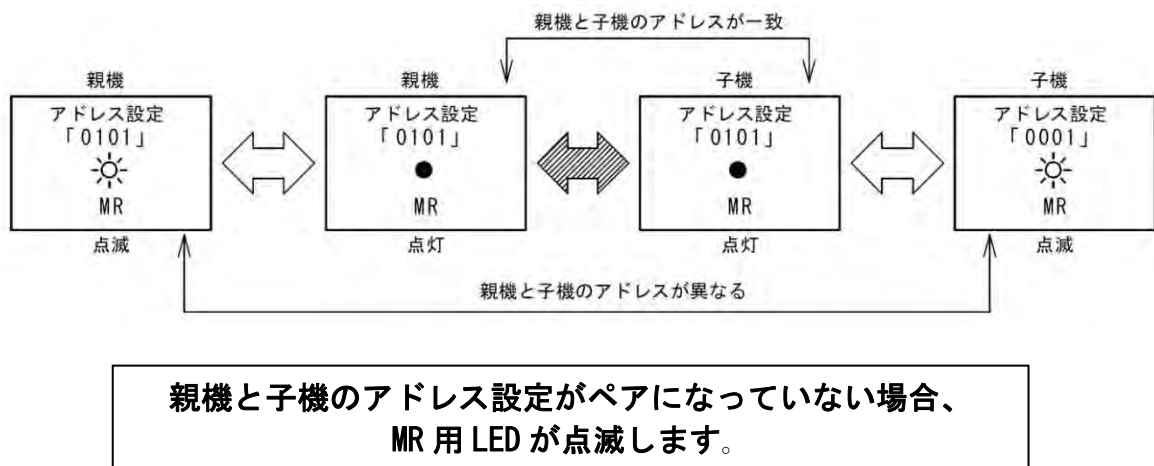
14. 設定したアドレスが対向の機器のアドレスに存在しない場合(宛先不明通知)
 親機のアドレス設定と子機のアドレス設定が一致していない場合、親機・子機共に
 MR用LEDが、点滅します。



(親機と子機のアドレスが異なる場合)

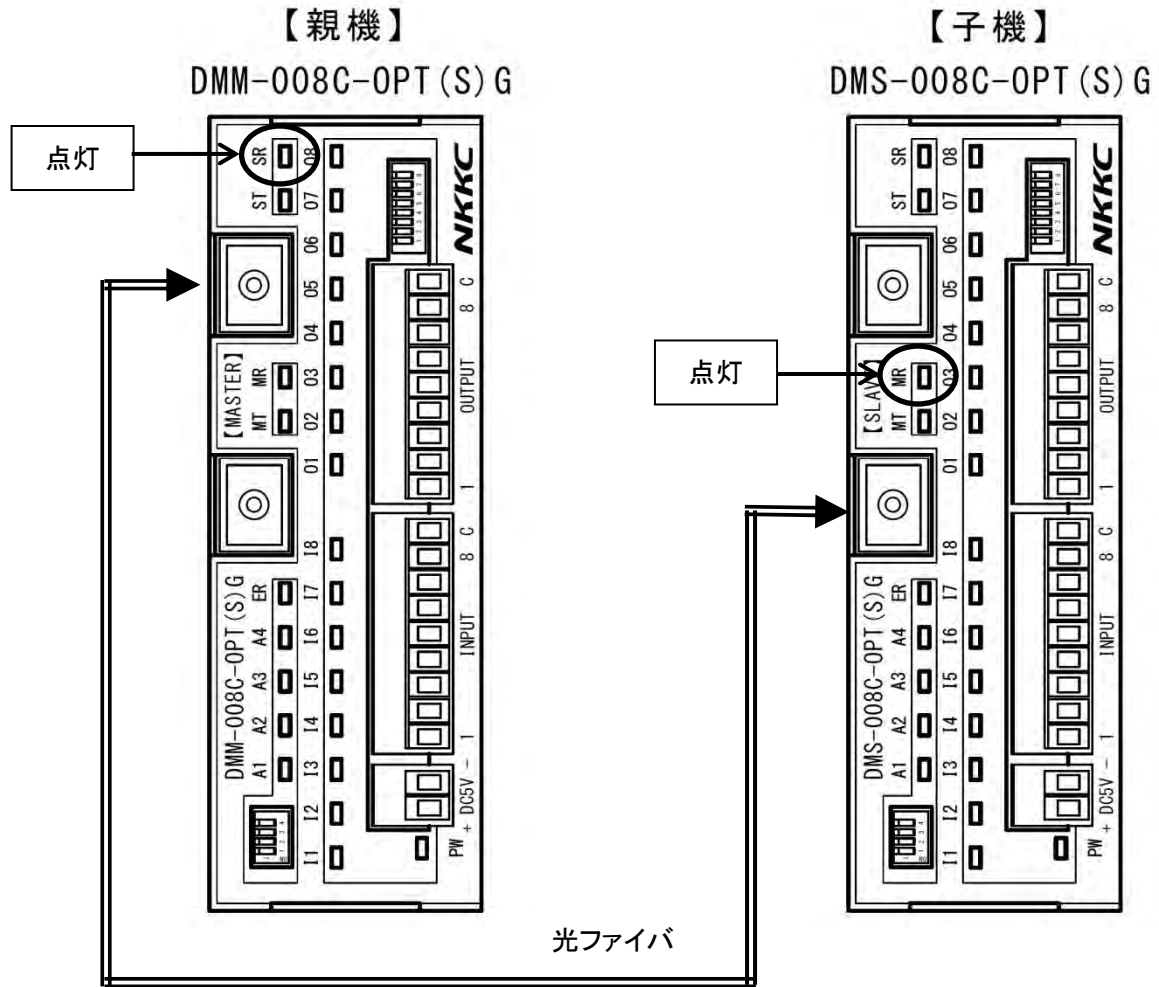


(複数台の親機と子機間でアドレスが異なる場合)



15. 接続方法

- ①DC5V 電源を接続し印加する。(11 項参照)
- ②アドレスを設定する。(12 項参照)
- ③光ファイバを接続する。(下図参照)
- ④宛先不明になっていないことを確認する。(MR 用 LED 点滅)
- ⑤親機の SR 用 LED 及び子機の MR 用 LED が点灯していることを確認する。



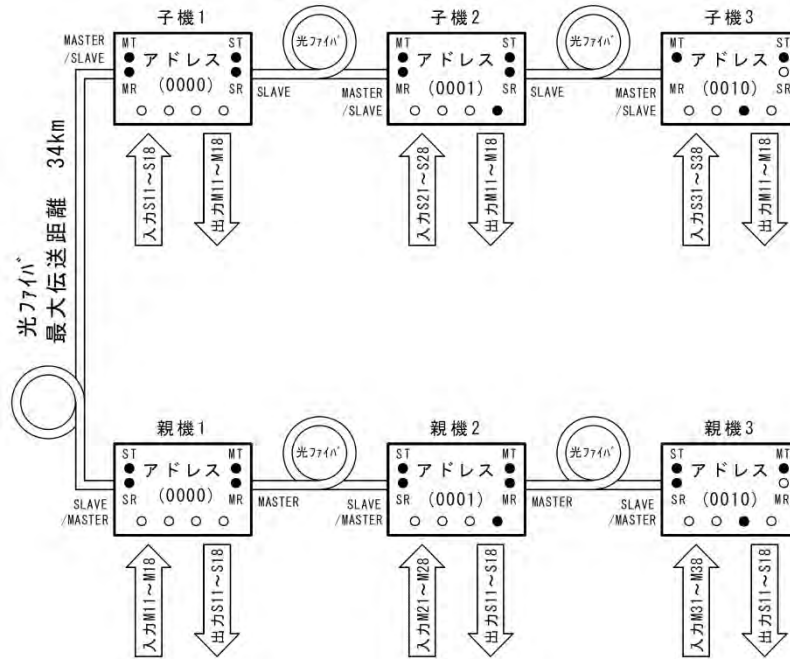
親機の
SLAVE/MASTER ポートに
光ファイバを接続する。
(ST 用 LED が点灯している側
です。)

子機の
MASTER/SLAVE ポートに
光ファイバを接続する。
(MT 用 LED が点灯している側
です。)

16. システム構成例

【拠点間通信】

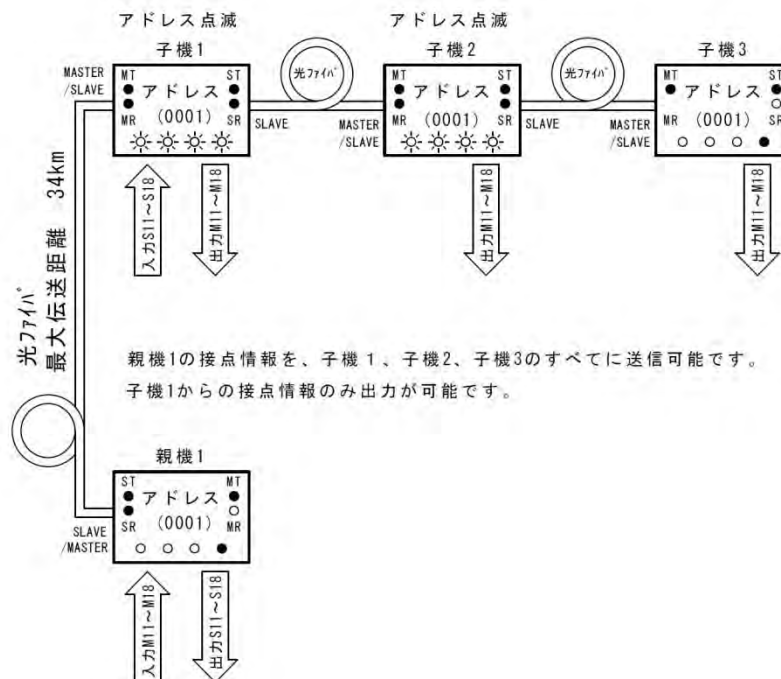
親機にて設定したアドレスと同じアドレス設定をした子機間にて、接点情報の双方向通信が1:1にて可能となります。最大16組までの親機-子機間通信が可能です。



【一斉送信】

親機にて設定したアドレスと同じアドレス設定の子機を複数台接続した場合、親機の接点情報を子機へ一斉送信することができます。

ただし、子機の接点情報は、親機に一番近い子機のみとなります。

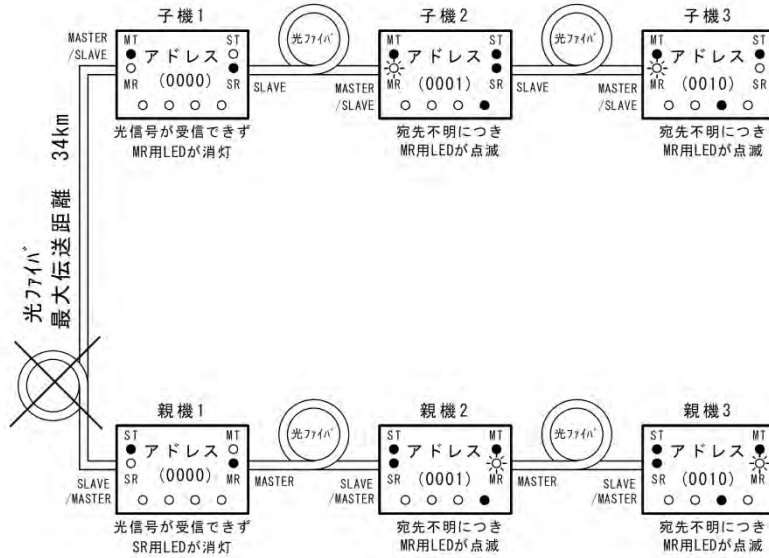


次ページに続く)

(前ページより)

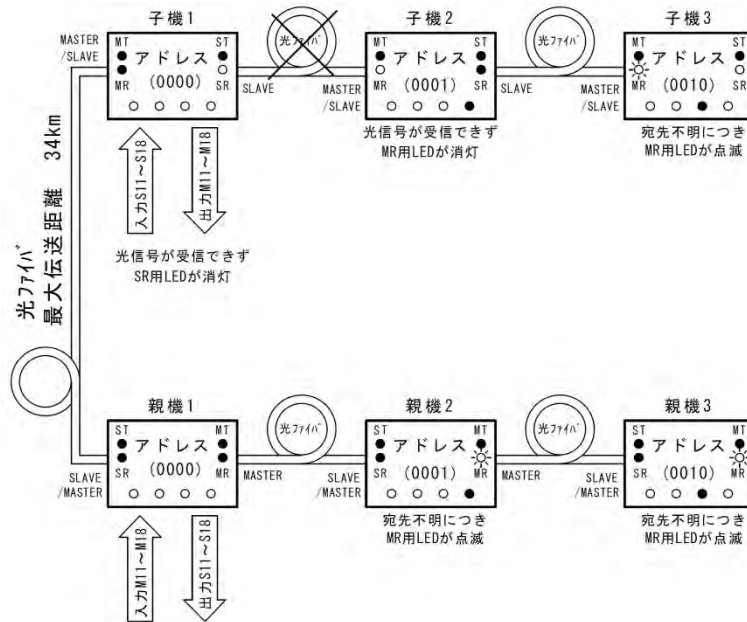
【光ファイバ断線検知 1】

「子機 1」 - 「親機 1」間の光ファイバが断線した場合、子機 1 の MR 用 LED と親機 1 の SR 用 LED が消灯します。また、その他の機器は宛先不明となり、MR 用 LED が点滅します。



【光ファイバの断線検知 2】

「子機 1」 - 「子機 2」間の光ファイバが断線した場合、子機 1 の SR 用 LED と子機 1 の MR 用 LED が消灯します。また、その他の機器は宛先不明となり、MR 用 LED が点滅します。
「子機 1」と「親機 1」間の通信は継続します。

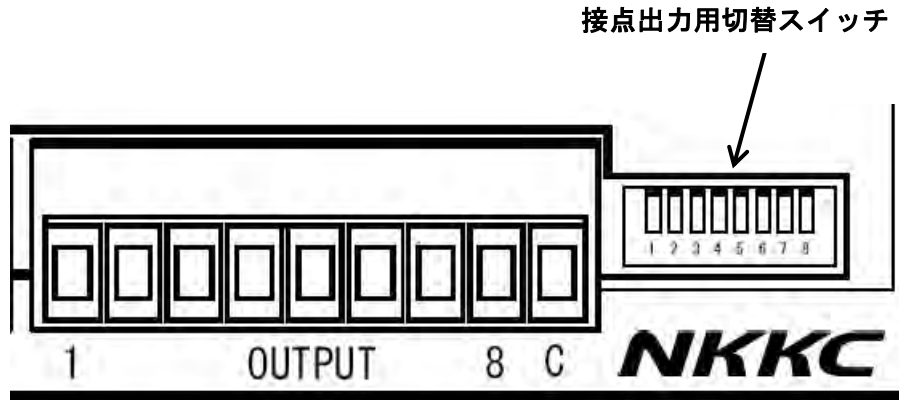


常に親機と子機は存在の確認を行っているため、故障や回線断が発生した場合、離れた拠点から、通信不良個所の特定ができます。

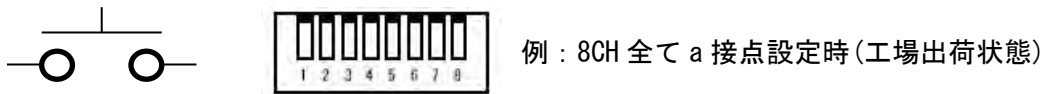
17. 接点出力用切替スイッチについて

スイッチを切り替えることで、OUTPUT 端子の接点出力状態を 8CH それぞれ独立して、a 接点と b 接点に切り替えることができます。

スイッチを上にするると a 接点、下にするると b 接点となります。



a 接点 : INPUT 側を ON にした時、OUTPUT 側がクローズとなります。

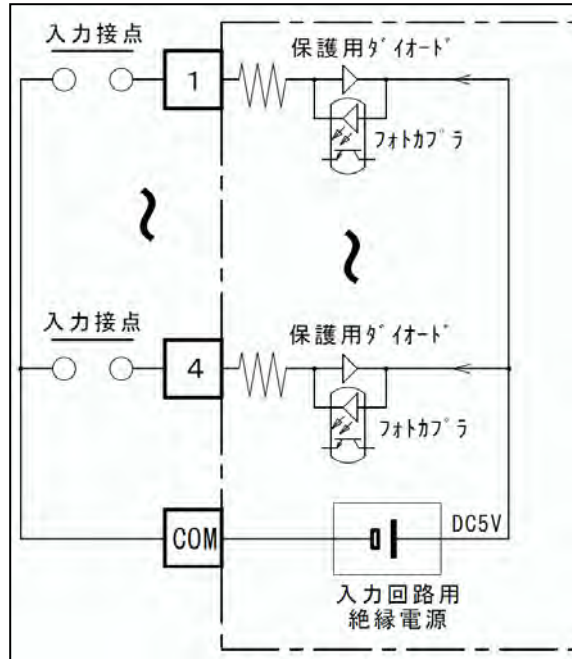


b 接点 : INPUT 側を ON にした時、OUTPUT 側がオープンとなります。

ただし、製品の電源 off 時には b 接点設定の場合でも接点状態はオープンとなります。



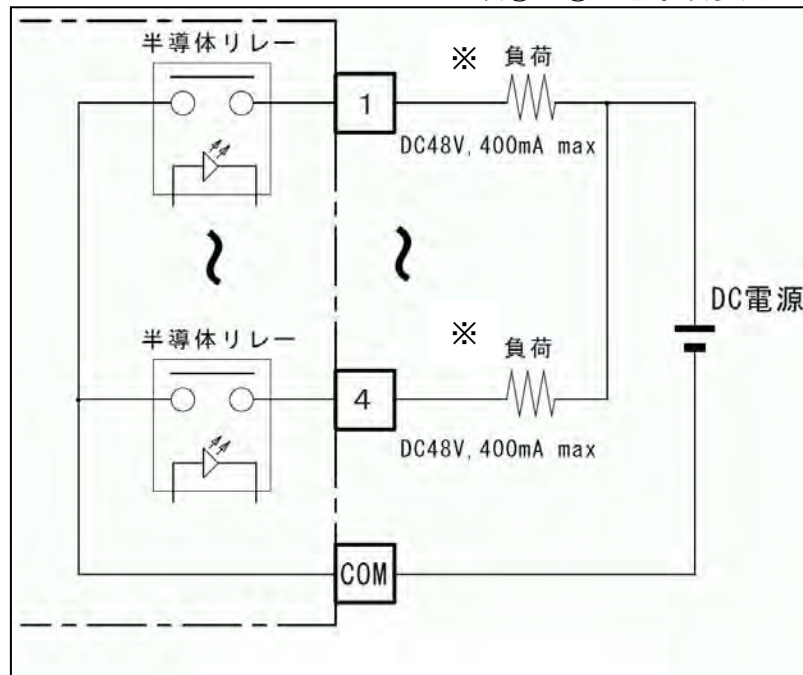
18. 送信部入力インターフェイス



※1CH 当たりの ON 検知電流は、入力接点抵抗 0Ω 時 2mA (typ)、ON 検知電流 1.2mA 以上。OFF 検知電流 1mA 以下。

19. 受信部出力インターフェイス

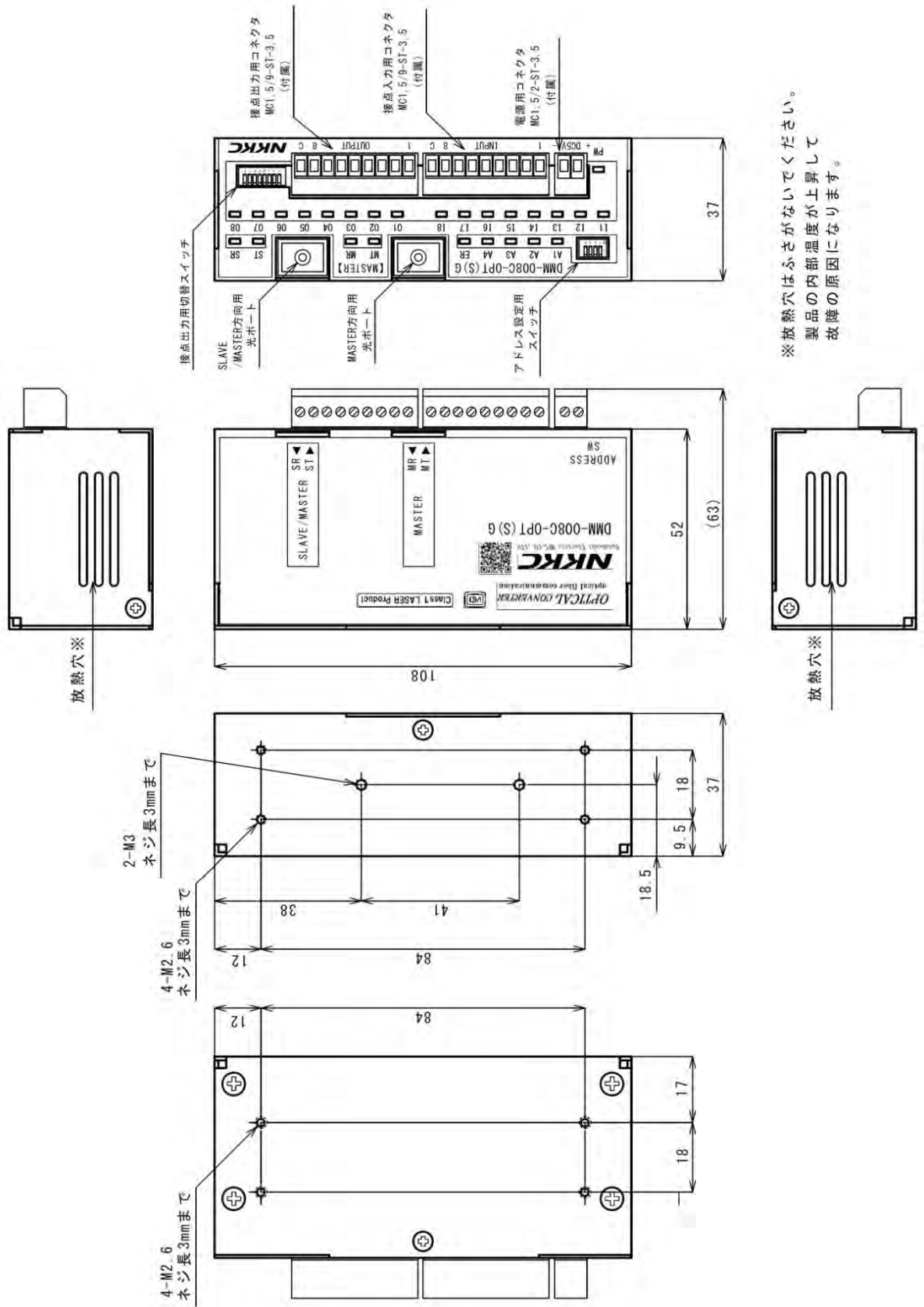
※32 項⑪～⑭注意事項参照



※1CH 当たりの半導体リレーの ON 抵抗値：2Ω 以下。
COM 端子に指定の極性はありません。

20. 親機：外形図/寸法図(DMM-008C-OPT(S)G)

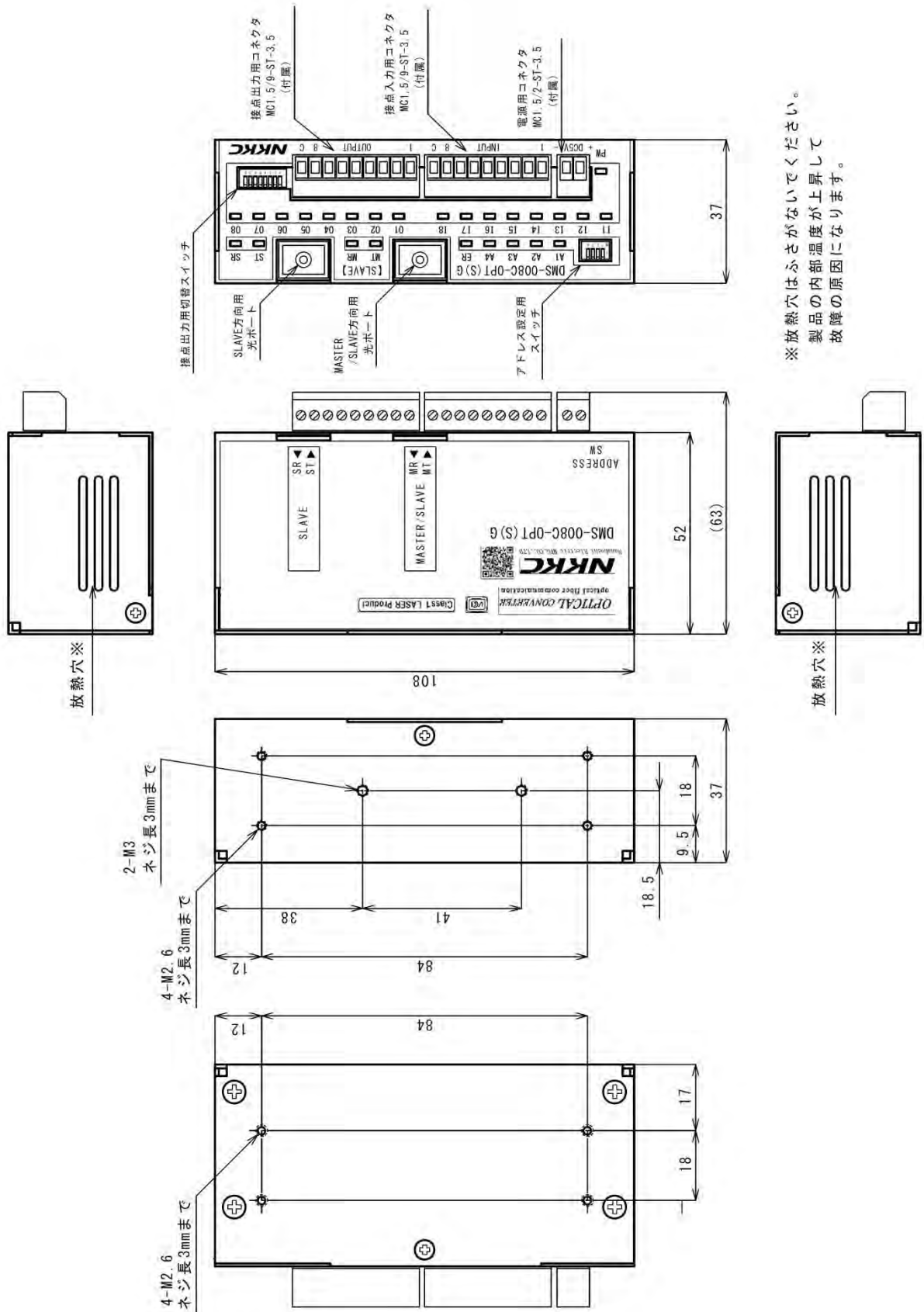
寸法単位：(mm)



※放熱穴はふさがれないでください。
製品の内部温度が上昇して
故障の原因になります。

2 1. 子機：外形図/寸法図 (DMS-008C-OPT (S) G)

寸法単位：(mm)



※放熱穴はふさがらないでください。
製品の内部温度が上昇して
故障の原因になります。

主管	DM□-008C-OPT(S)G	頁
情報通信事業部	仕様書	16 / 28

2.2. 主な仕様

伝送信号		接点信号 入力 8 点、出力 8 点	
光学的仕様	光信号変調方式	デジタル強度変調	
	適合光ファイバ	シングルモードファイバ (SM 10/125) マルチモードファイバ (GI 50/125)	
	適合光コネクタ	SC 型 (JIS C 5973 F04) (PG 研磨)	
	最大伝送距離 (目安)	SMF 34 km (光ファイバ損失 0.5dB/km 時) MMF 3 km (光ファイバ損失 3.0dB/km 時)	
	発光素子	LD	
	受光素子	PIN-PD	
電氣的仕様	入力部	入力インターフェイス	無電圧接点
		コモン線	1 本
		許容線路抵抗	各 CH/1kΩ 以下、COM/300Ω 以下
		信号コネクタ	MC1, 5/9-ST-3, 5 (フェニックスコンタクト製)
		回路絶縁	フォトカプラー絶縁
	出力部	出力インターフェイス	半導体リレー
		コモン線	1 本
		接点定格	DC48V, 400mA 以下
		遅延時間	1msec 以下
		接点動作速度	4msec 以下
		信号コネクタ	MC1, 5/9-ST-3, 5 (フェニックスコンタクト製)
		回路絶縁	フォトカプラー絶縁
電源部	使用電源	DC5V±2%	
	消費電流	1A 以下	
	電源コネクタ	MC1, 5/2-ST-3, 5 (フェニックスコンタクト製)	
エラー処理	フレームエラー	前値保持	
	電源断	全点リセット	
	光回線断	全点リセット	
状態	LED 表示	項目 1 3 参照	
外形 (突起部を含まず)		W 108 × D 52 × H 37 (mm)	
重量 (取付板を含む。)		約 270g	
動作温度		-25°C ~ +65°C (結露なきこと)	
保存温度		-25°C ~ +85°C (結露なきこと)	
付属品・オプション	入出力用コネクタ (2 個付属)		
	電源用コネクタ (1 個付属)		
	取付板 (2 枚付属)		

2.3. 光学の仕様

親機 : DMM-008C-OPT(S)G

		光ポート (MASTER)			光ポート (SLAVE/MASTER)			単位
		Min	Typ	Max	Min	Typ	Max	
発光	発光強度	-15	—	-5	-15	—	-5	dBm
	発光波長	1500	1550	1600	1260	1310	1360	nm
受光	最小受光感度	—	—	-32	—	—	-32	dBm
	最大受光感度	-3	—	—	-3	—	—	dBm
	受光波長	1260	—	1360	1500	—	1600	nm

子機 : DMS-008C-OPT(S)G

		光ポート (MASTER/SLAVE)			光ポート (SLAVE)			単位
		Min	Typ	Max	Min	Typ	Max	
発光	発光強度	-15	—	-5	-15	—	-5	dBm
	発光波長	1500	1550	1600	1260	1310	1360	nm
受光	最小受光感度	—	—	-32	—	—	-32	dBm
	最大受光感度	-3	—	—	-3	—	—	dBm
	受光波長	1260	—	1360	1500	—	1600	nm

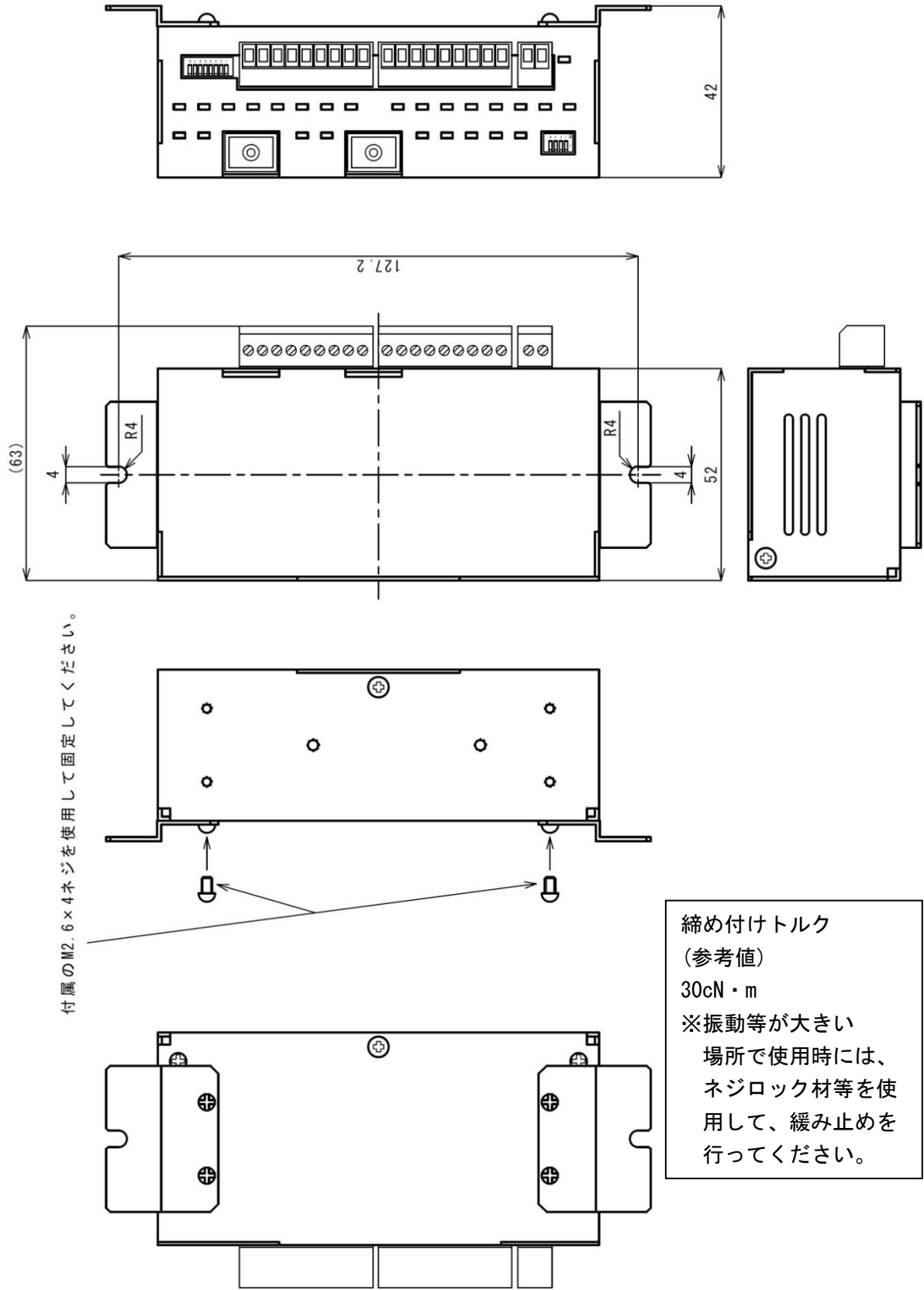
2.4. 絶対最大定格

		値	単位	備考
電源電圧		5.5	V _{DC}	
接点側	阻止電圧	60	V _{DC}	
	オン電流	400	mA	

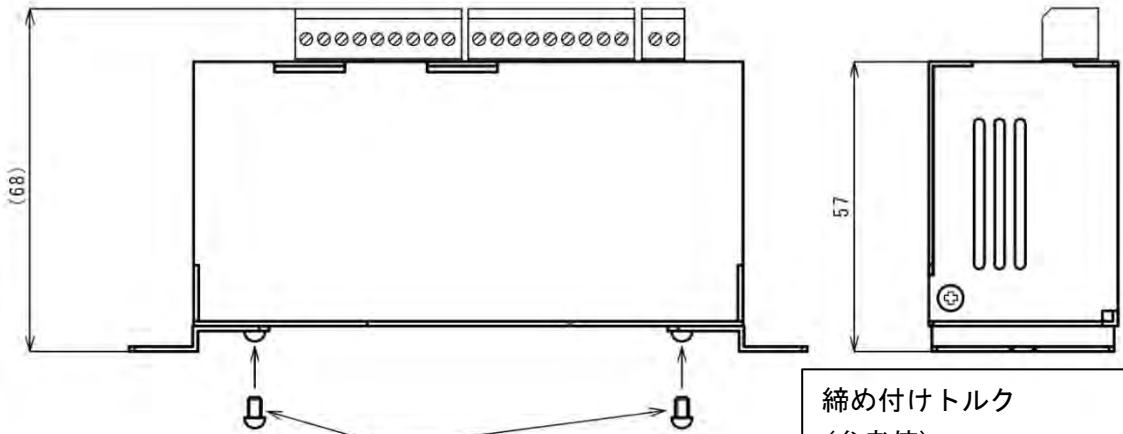
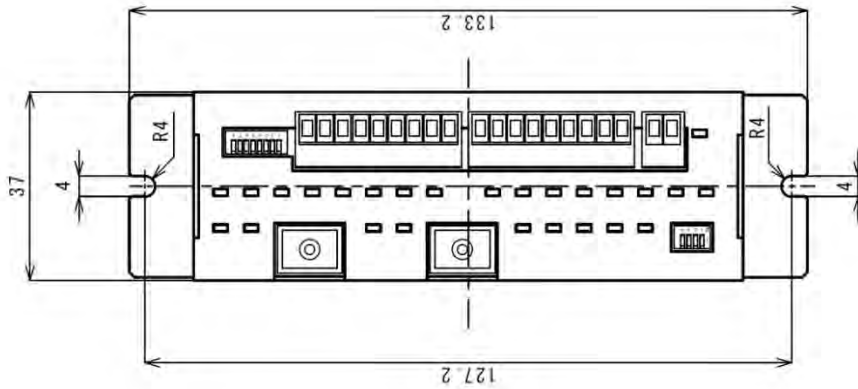
2.5. 電気的仕様

項目		条件	Min	Typ	Max	単位
消費電流		①V _{CC} =5V ②親機と子機を光接続 ③入力すべて ON ④出力リレー (a 接点) すべて ON	—	—	900	mA
入力側	許容線路抵抗	各 CH 入力端子	—	—	1k	Ω
		COM 端子	—	—	300	Ω
	出力電圧	各 CH 入力端子—COM 端子間	—	—	5	V _{DC}
	絶縁抵抗	光変換モジュール内—入力端子間	1000	—	—	MΩ
	印加耐電圧		—	—	30	V _{DC}
接点側	阻止電圧		—	—	48	V _{DC}
	オン電流		—	—	400	mA
	オン抵抗		—	—	2	Ω
	動作時間		—	0.8	2	msec
	復帰時間		—	0.1	0.5	msec
絶縁抵抗	送受信機—出力端子間	1000	—	—	MΩ	

26. 取付板装着時の寸法(横配置時)

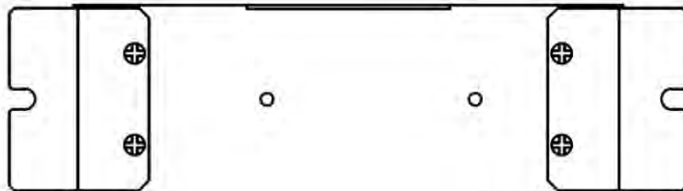


27. 取付板装着時の寸法(縦配置時)



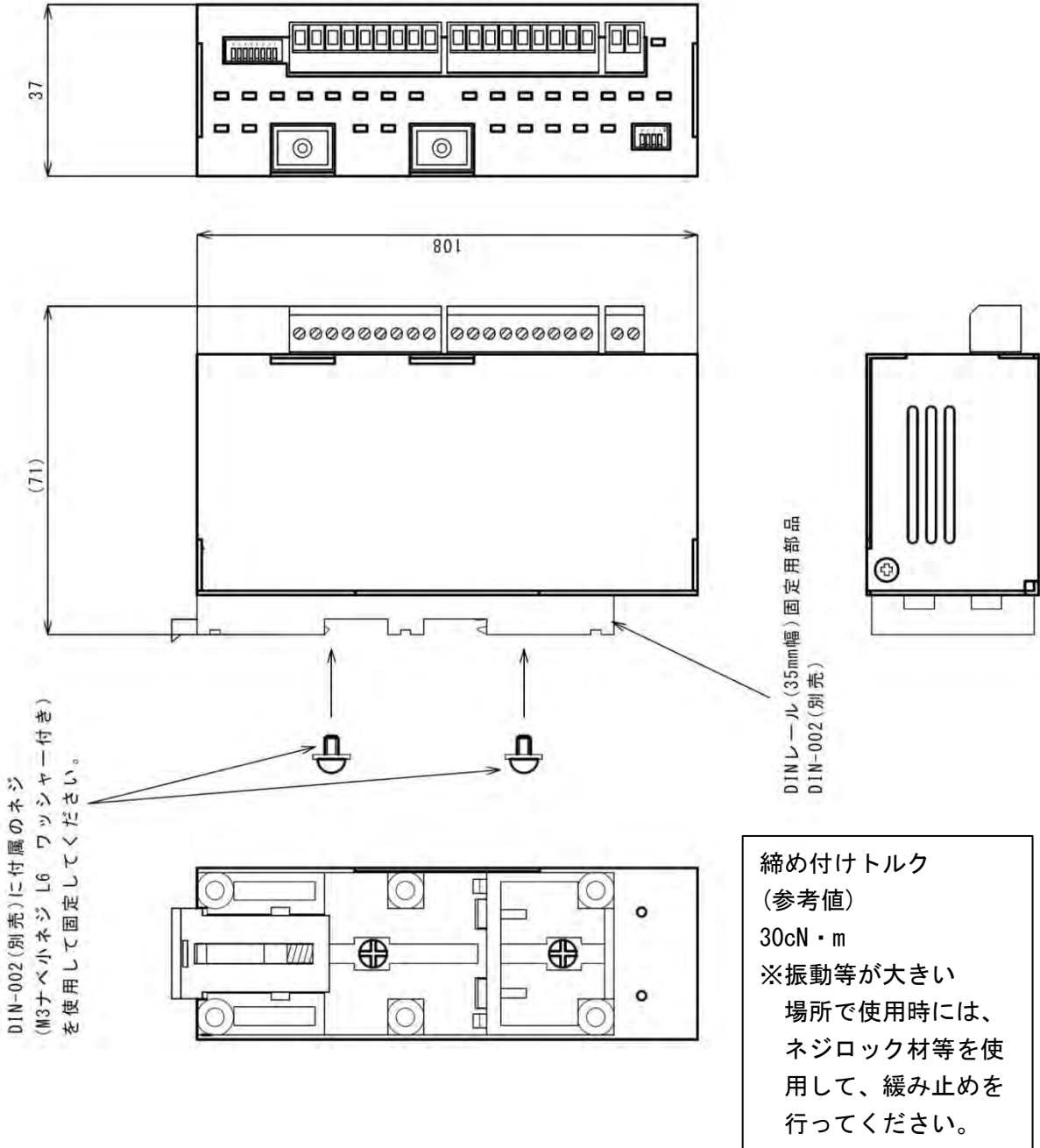
付属のM2.6×4ネジを使用して固定してください。

締め付けトルク
(参考値)
30cN・m
※振動等が大きい
場所で使用時には、
ネジロック材等を使用し
て、緩み止めを行って
ください。



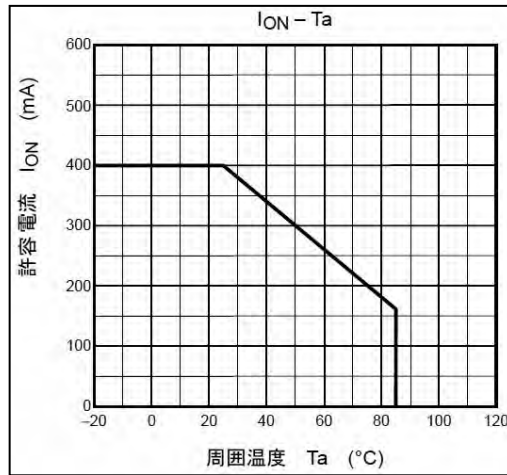
28. 取付板装着時の寸法(35mm幅 DIN レール対応)

DIN-002(別売)を使用して、35mm幅 DIN レールに取り付けることが可能です。



29. 参考資料

受信機内半導体リレーの 許容電流-温度特性



30. 付属品のご案内

- ・本製品には、
光コネクタ保護キャップが2個、
MC1,5/2-ST-3,5(フェニックスコンタクト製)が1個、
MC1,5/9-ST-3,5(フェニックスコンタクト製)が2個
取付板が2個
取付板固定用ネジ4個
が付属します。

31. 別売オプション品のご案内

- ・電源電圧がDC12V及びDC24V対応をご希望の場合、
弊社製DC-DCコンバータ「PWシリーズ」(別売)をご使用いただくことにより、対応が可能です。
- ・電源電圧がAC100V電源対応をご希望の場合、
弊社推奨品ACアダプタ「AD5V-3B」(別売)を
ご使用いただくことにより、対応が可能です。
- ・本製品をDINレール(35mm幅)にて、固定される場合、DIN-002(別売)を
ご使用いただくことにより、対応が可能です。
項目28をご参照ください。

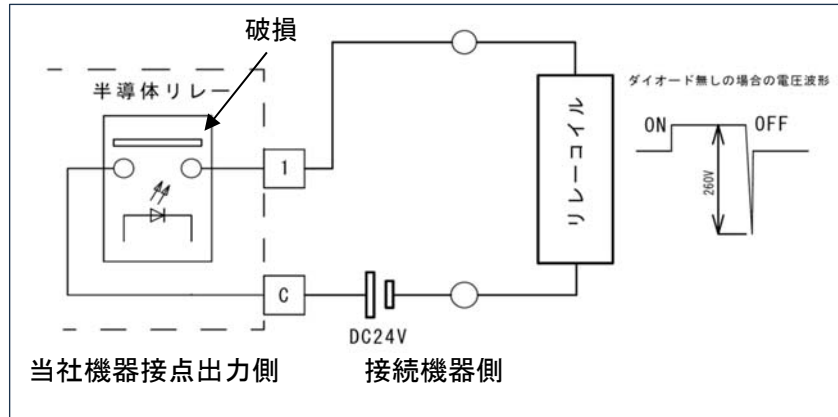
主管	DM□-008C-OPT(S)G	頁
情報通信事業部	仕様書	22 / 28
3.2. 注意事項		
①製品とファイバの接続により発生する収束を考慮してご使用ください。		
コネクタ接続の場合、ご使用になるアダプタ及び接続先のコネクタ精度にもよりますが、一般的に 0.3dB 程度の損失が発生する可能性がありますのでご注意ください。		
②製品を解体しないでください。		
③電源投入直後の動作にはお気をつけください。		
④本製品を長時間使用しない場合には、光ファイバを取り外し、		
光コネクタに付属のキャップを取り付けた状態で保存してください。		
光ファイバコネクタに埃などが入ると伝送距離、伝送能力などの劣化が発生します。		
⑤本製品は、光学系の精密部品を内蔵しています。落下・衝撃などを加えますと、		
故障の原因となります。		
⑥本製品は、クラス1レーザーを使用しています。		
SC コネクタ先端からはレーザー光が放射されていますので、安全の為、		
直接のぞき込まないで下さい		
⑦シャーシ部への静電気や雷サージの印加は、通信エラーや故障の原因となりますのでご注意ください。信頼性を必要とされる箇所でご使用される場合には、シャーシ部の絶縁処理等を施して、		
設置してください。		
⑧	<p style="text-align: center;">この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。</p> <p style="text-align: right;">VCCI-A</p>	
⑨放熱穴を塞がず通気のいい場所でご使用ください。放熱ができないと製品内部の温度が		
上昇し、故障の原因となります。		
⑩雷サージ流入や ESD 印加による製品破損を防止するため、本品を設置時には、筐体を		
アースに接地してください。尚、筐体と電源 GND は、非導通となっております。		
アース接地を行わずに1ヶ月以上継続してご使用中に故障し、弊社にて雷サージ流入や		
ESD 印加による製品破損と特定した場合には、修理不可の全損扱いとさせていただきます。		
DM□-008C-OPT(S)G		2024年4月1日現在

3.2. 注意事項 (つづき)

① 接点出力に接続する機器についての注意点 1

製品の接点出力にリレーコイル等の誘導負荷を直接接続される場合、リレーコイルは誘導負荷ですので、回路を遮断する際に大きなサージ電圧が発生し、製品内蔵の半導体リレーを破損させてしまうことがあります。

サージ電圧に起因した故障が発生した場合には保証対象外となる場合があります。



【図1】ダイオード無し時の接続例

サージの対策のためには、ダイオードを並列に挿入することやダイオード内蔵型のリレーを選定されることでサージを負荷で消費させて保護します。

(CR内蔵型は交流用となるため本回路の対策には有効ではありません。)

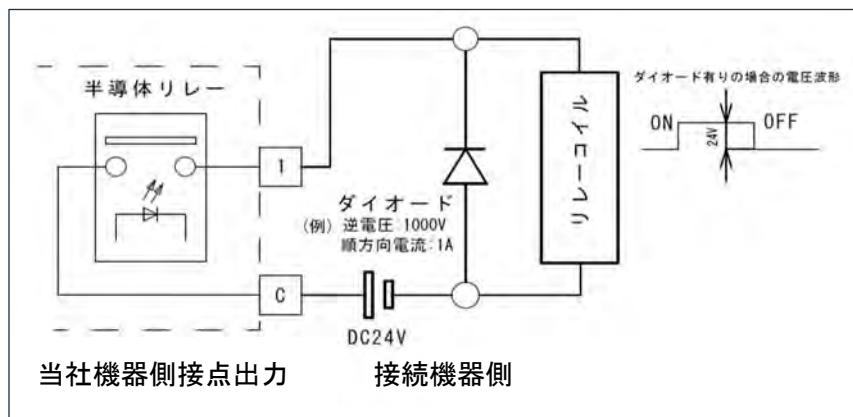
設置するダイオードは、電源電圧10倍以上、順方向電流は負荷電流以上のものを選定してください。

選定例1：整流ダイオード GP02-30 Vishay 製

ピーク繰り返し逆電圧：3,000V

最大非繰り返しサージ電流：15A

選定例2：ダイオード内蔵リレー オムロン製 MY2-D

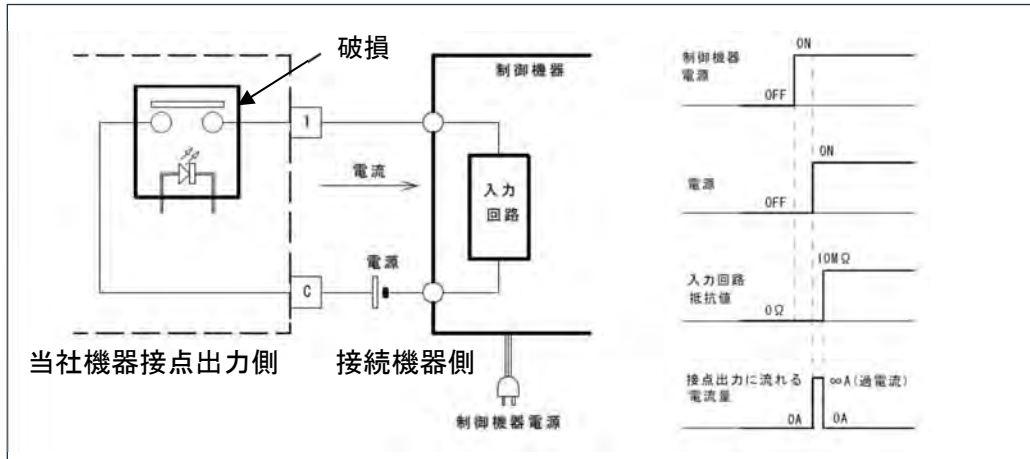


【図2】ダイオード有り時の接続例

3.2. 注意事項 (つづき)

⑫接点出力に接続する機器についての注意点 2

製品の接点出力に、半導体負荷や直接制御機器等を接続した場合、制御機器の電源起動時、接点出力部に過電流が流れる場合がございます。一時的であっても仕様値を超える電流が接点出力部に流れた場合、製品内蔵の半導体リレーを破損させてしまうことがあります。過電流に起因した故障が発生した場合には保証対象外となる場合があります。



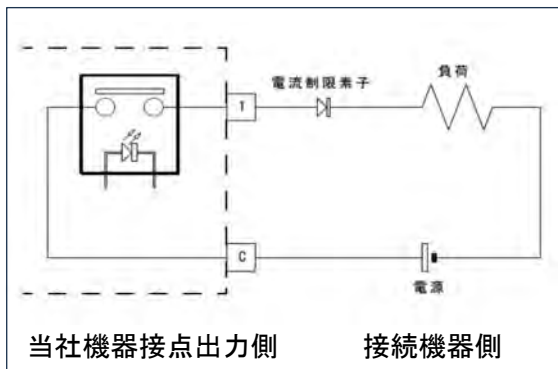
【図3】過電流発生例

電流量を制限する抵抗やダイオードを直列に挿入することで過電流を防止することができる場合があります。

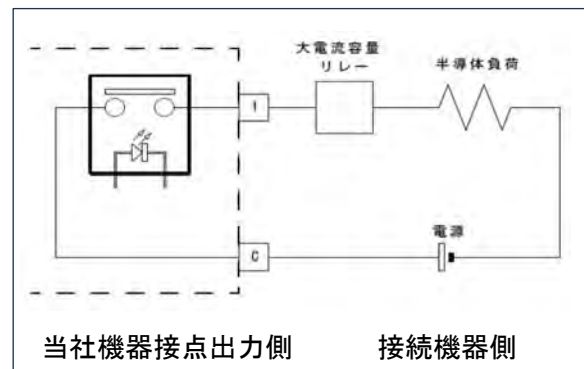
尚、設置する電流制限素子は、使用される電圧、電流に合わせて選定してください。また、過電流に耐えることが可能な大電流容量のリレーを間に入れることで、製品内蔵の半導体リレーの破損を防止することができます。

尚、設置する大電流容量リレーは、使用される電圧、電流に合わせて選定してください。

選定例：定電流ダイオード SEMITEC 製 CRD E シリーズ



【図4】過電流制限例

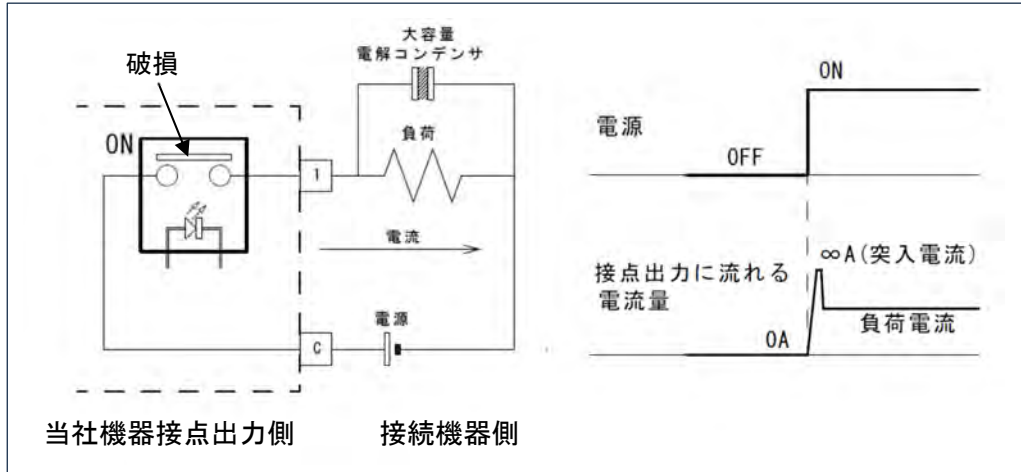


【図5】大電流容量リレーによる保護例

3.2. 注意事項 (つづき)

⑬ 接点出力に接続する機器についての注意点 3

接点出力に接続する負荷にノイズ対策として大容量のコンデンサ等を平滑用に接続した場合、電源起動時のコンデンサへの充電にともなう突入電流により、過電流状態となり、製品内蔵の半導体リレーを破損させることがあります。
過電流に起因した故障が発生した場合には保証対象外となる場合があります。



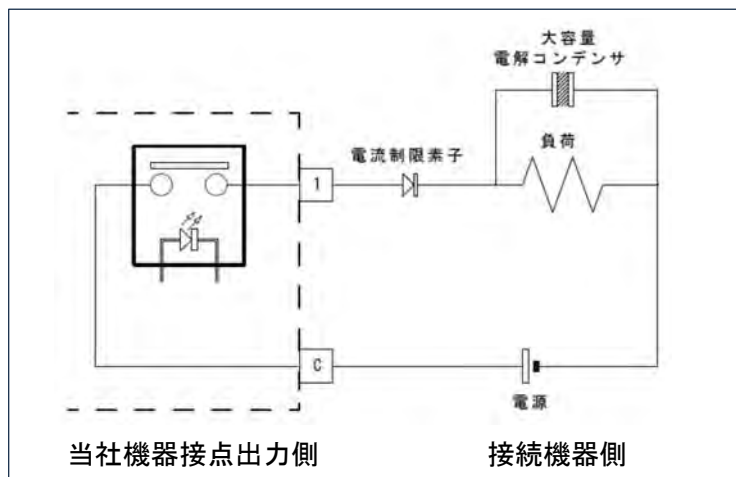
【図 6】突入電流発生例

電流量を制限する抵抗やダイオードを直列に挿入することで過電流を防止することができます。

尚、設置する電流制限素子は、使用される電圧、電流に合わせて選定してください。ただし、電解コンデンサの応答性が悪くなる場合があります。ご注意ください。

選定例 1：定電流ダイオード SEMITEC 製 CRD E シリーズ

選定例 2：電解コンデンサの小容量化

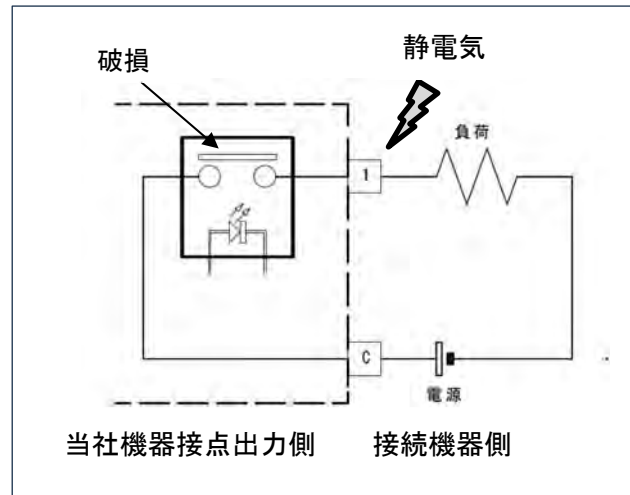


【図 7】突入電流制限例

3.2. 注意事項 (つづき)

⑭接点出力に接続する機器についての注意点 4

頻繁に静電気の発生する現場での使用や耐電圧試験を実施した場合、半導体リレーを破損させてしまうことがあります。静電気や高電圧に起因した故障が発生した場合には保証対象外となる場合があります。



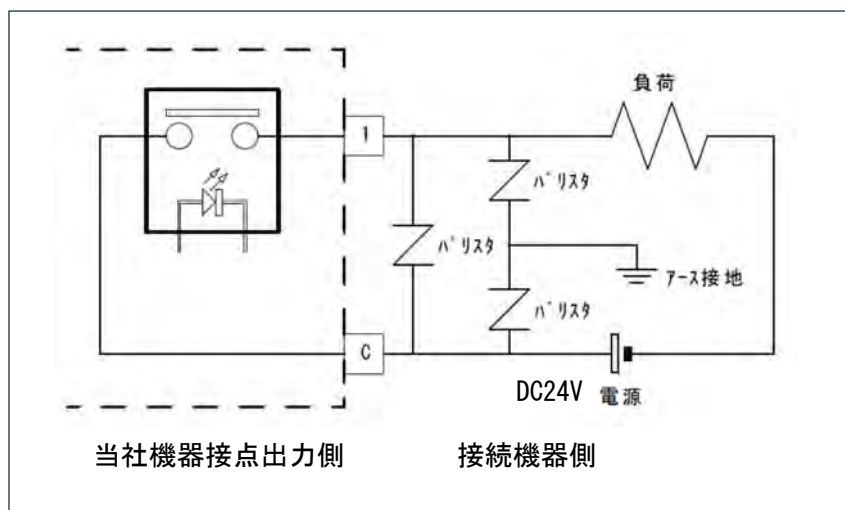
【図 8】 静電気発生例

バリスタ等の静電気対策素子を挿入することで過電流を防止することができる場合があります。

尚、設置するバリスタは、使用される電圧に合わせて選定してください。

選定例：バリスタ 日本ケミコン製 TND20V-390KB00AAA0

バリスタ電圧：39V



【図 9】 バリスタ設置例

主管	DM□-008C-0PT(S)G	頁
情報通信事業部	仕様書	27 / 28
<p>33. 記載事項の変更：お断り</p> <p>① 本仕様は予告なく変更することがあります。最新の情報については弊社までお問合せ下さい。</p> <p>② 選定例は、動作を保証するものではありません。</p> <p>34. 適用範囲</p> <p>以上の内容は、日本国内での取引および使用を前提としております。 日本国外での取引および使用に関しては、当社営業担当者までご相談下さい。</p> <p>35. 保証内容</p> <p>① 保障期間は、ご購入後またはご指定場所に納入後3年といたします。</p> <p>② 納入した製品が納入日より3年以内に設計製作上の不備により破損または故障が発生した場合は製品の無償交換致します。尚、アース接地をせずに、1ヶ月以上継続してご使用された場合、保証期間は1年とさせていただきます。</p> <p>保証期間内でも次の場合は対象外とします。</p> <p>1. 火災、天災、異常電圧による故障、損傷。 4. 故障が本製品以外の原因による場合。 2. 不当な修理、調整、改造された場合。 5. 納入時明細書類のご指示のない場合。 3. 取扱が不適当なために生ずる故障、損傷。</p> <p>36. 責任の制限</p> <p>当社商品に起因して生じた特別損害、間接損害、または消極損害に関しては、当社はいかなる場合も責任を負いません</p>		
DM□-008C-0PT(S)G		2024年4月1日現在

主管	DM□-008C-0PT(S)G	頁
情報通信事業部	仕様書	28 / 28
37. 適合用途の条件		
<p>① 当社商品を他の商品と組み合わせて使用される場合、お客様が適合すべき規格・法規または規制をご確認ください。また、お客様が使用されているシステム、機械、装置への当社商品の適合性は、お客様自身でご確認下さい。</p> <p>② 下記用途に使用される場合、当社営業担当者までご相談のうえ仕様書などにより、ご確認いただくとともに、定格・性能に対し余裕を持った使い方や、万一故障があっても危険を最小にする安全回路などの安全対策を講じてください。</p> <p>a) 屋外用途、潜在的な化学汚染あるいは電氣的妨害を被る用途またはカタログ等に記載のない条件や環境での使用</p> <p>b) 原子力制御設備、焼却設備、鉄道・航空・車両設備、医用機械、娯楽機械、安全装置、及び行政機関や個別業界の規制に伴う設備</p> <p>c) 人命や財産に危険が及びうるシステム・機械・装置</p> <p>d) ガス、水道、電気の供給システムや24時間連続運転システムなど高い信頼性が必要な設備</p> <p>e) その他、上記 a)～d) に準ずる、高度な安全性が必要とされる用途</p> <p>③ お客様が当社製品を人命や財産に重大な危険を及ぼすような用途に使用される場合には、システム全体として危険を知らせたり、冗長設計により必要な安全性を確保できるよう設計されていること、および当社商品が全体の中で意図した用途に対して適切に配電・設置されていることを必ず事前に確認してください。</p> <p>④ カタログ等に記載されているアプリケーション事例は参考用ですので、ご採用に際しては機器・装置の機能や安全性をご確認のうえ、ご使用ください。</p> <p>⑤ 当社商品が正しく使用されず、お客様または第三者に不測の損害が生じることがないように、使用上の禁止事項および注意事項をすべてご理解のうえ遵守ください。</p> <p>⑥ カタログ等に記載の各定格・性能値は、単独試験における値であり、各定格・性能値の複合条件を同時に保証するものではありません。</p>		
DM□-008C-0PT(S)G		2024年4月1日現在